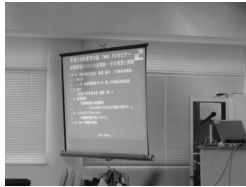


# 都市教養プログラムにおける成績評価方法



■ 宮台真司  
(基礎教育部会・都市教養プログラム部会長)

■ 代理: 舩本 直文  
(FD委員会、基礎教育センター)

2008. 02. 22

2007年度第6回FDセミナー

1

# 成績評価に関する申し合わせ —都市教養プログラム編—

2007/11/8 基礎教育部会・都市教養プログラム部会

1. 都市教養プログラム各科目の成績評価分布の実態を、科目匿名で公表し各科目担当者に周知する。その上で、評点の偏りが著しい科目が存在することについて注意を喚起する。
2. 成績評価方法については、考慮する要素(出席、試験、レポート、等)と、それらが考慮される割合を、シラバスに明記すると共に、受講生に対し口頭で周知する。
3. 論述式の試験・レポートの評価に際しては、どのような観点から評価がなされるかについて、学生に対し事前に説明する。

2008. 02. 22

2007年度第6回FDセミナー

2

# 都市教養プログラムの成績評価の現状と問題点

- 教員の責任により評価実施=成績評価に大きなばらつきが見られる(ほとんど5, 全く5がない等)
- 成績評価の方法(評価項目や配点など)がシラバスに明記されていない場合が多い。
- 成績評価への口頭説明が不十分。
- 成績評価への不服申し立てが不明である。

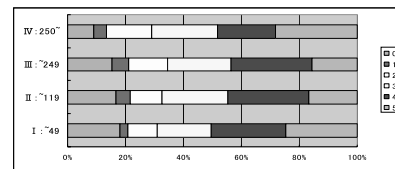
2008. 02. 22

2007年度第6回FDセミナー

3

# 1. 成績の度数分布(2006年度都プロ、受講者4区分)

	N	0	1	2	3	4	5
I:~49	35	189	29	107	196	272	258
II:~119	54	716	208	477	965	1196	719
III:~249	35	937	338	816	1343	1695	943
IV:250~	15	458	236	793	1162	1031	1441



2008. 02. 22

2007年度第6回FDセミナー

4

# 2. 相関関係(履修者数、成績、成果、満足度)

	I:~49			II:~119			III:~249			IV:250~		
	成績	成果	満足	成績	成果	満足	成績	成果	満足	成績	成果	満足
履修者数	.231	-.115	.067	-.174	.020	-.127	.084	-.124	-.039	.149	-.555	-.411
成績平均		.099	.266		.224	.299		.379	.346		-.227	-.079

1. 履修者数と成績には相関は見られない
2. 成績と履修者数および満足度にも強い相関は見られない

※Pearsonの相関係数。赤字・下線は5%水準で有意。

2008. 02. 22

2007年度第6回FDセミナー

5

# 都市教養プログラムとは その目的(履修の手引)

■大都市の課題は様々な問題が複雑にからみあっており、特定の学問を深く研究することが重要であることはもちろんであるが、それに加え、さまざまな領域の学問からのアプローチを学習することも重要となる。都市教養プログラムは、そのための手がかりを学ぶことを目的とした、都市教養教育の中心をなす科目である。(p.14)

2008. 02. 22

2007年度第6回FDセミナー

6

表1.都市教養プログラムの4テーマ・5系列と授業例

系 テーマ	人文・社会科学系 I	人文・社会科学系 II	技術・自然科学系 I	技術・自然科学系 II	実験・体験型科目
文化・芸術・歴史	* 自然と文明の哲学 都市の歴史と文化	* 都庁の仕組みと仕事 * 都市社会学	数学の歴史 建築文化論	大地の成り立ちを探る 都市空間の人文地理	環境体験型インターンシップ
グローバル化・環境	* 環境と生命の倫理 科学哲学	環境と法 開発と環境 * 都市社会学	都市の生活環境と化学物質 電気エネルギーと環境	細胞生物学 * 進化生物学 生態と環境	
人間・情報	心の哲学 言語科学入門 生活の心理学	情報社会と法 * 社会調査法 * 都市社会学	* 集合と論理的思考 計算の理論	* ゲノム科学 神経生物学 * バイオテクノロジー	
産業・社会	* 科学哲学 産業と歴史 * 都市の歴史と文化	* 都市社会学 * 社会調査法 社会と福祉	確率統計と数理ファイナンス 現代社会・化学の役割	* ゲノム科学 * バイオテクノロジー 感染症と再生医療	

2008. 02. 22

2007年度第6回FDセミナー

7

# 都市教養プログラムの成績評価の課題

1. 都市プロの目的・目標と合致した評価方法(評価項目、評価配点、絶対/相対評価、配点配分など)の共通認識と明示化
2. 講義:教養科目と専門科目の評価の違いがある可能性は?
3. 人文・社会科学系および技術・自然科学系の評価の違いがどのように認識されているか?
4. 本プログラムが一種のオムニバスと考えれば、総合的な評価は一体誰がどうするのか?
5. 担当教員全体で成績評価に関して共通認識を持つ機会が不十分

2008. 02. 22

2007年度第6回FDセミナー

8